

草の根技術協力（支援型）案件概要表

I. 事業の概要	
1. 対象国名	モンゴル国
2. 案件名	モンゴル国地域資源を活かしたバイオマス燃料普及プロジェクト
3. 事業の背景と必要性	<p>モンゴルでは人口約 350 万人のうち約 73%が都市部に居住し、特に首都ウランバートル市の人口は 2000 年の約 77 万人から 2023 年には約 160 万人へと急増している。これに伴いゲル地区が拡大し、約 22 万世帯で使用される石炭ストーブにより深刻な大気汚染が発生している。大気汚染に起因する疾病により年間約 300 人が死亡し、その約 8 割が 5 歳未満の児童と報告されている。</p> <p>政府は生石炭輸送を禁止する規制などの対策を進めているものの、代替燃料は高価であり、安定的かつ低コストなエネルギー供給の確保が課題となっている。また、再生可能エネルギーの導入拡大が国家政策として掲げられており、地域資源を活用したエネルギーの普及が求められている。</p> <p>このため、本事業ではバイオマスブリケットを導入し、地方の未利用バイオマス資源と都市部の燃料需要を結び付けることで、大気汚染の改善と持続可能なエネルギー供給の実現を図る必要がある。</p>
4. プロジェクト目標	トゥブ県の農牧家が生産したバイオマスブリケットが、ウランバートル市バヤンズルフ地区で利用されるようになる。
5. 対象地域	トゥブ県セルゲレン・ソム、ウランバートル市バヤンズルフ地区
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	<ol style="list-style-type: none"> 直接受益者：トゥブ県セルゲレン・ソム農牧家 約 8~15 世帯およびウランバートル市バヤンズルフ地区住民 約 40 世帯（約 200 名） 間接受益者：バイオマスブリケット・セミナー参加者 約 100 名
7. 生み出すべきアウト プット及び活動	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> トゥブ県セルゲレン・ソムの農牧家が、バイオマスブリケットを生産できるようになる。 ウランバートル市バヤンズルフ地区において、バイオマスブリケットが試行利用される。 トゥブ県とウランバートル市をつなぐバイオマスブリケットの販売・流通・普及体制が検討される。 <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1：セルゲレン・ソムの農牧家にバイオマスブリケットに関する説明を行う 1-2：農牧家を対象に技術移転ワークショップを開催する 1-3：農牧家がバイオマスブリケットを生産する 2-1：バイオマスブリケット利用に関するイラストを含むマニュアル・啓発資材を作成する 2-2：バヤンズルフ地区において説明会・ベースライン調査を実施する

	<p>2-3：利用者トレーニングと試行利用を実施する</p> <p>2-4：バイオマスブリケット利用のモニタリングと改善を行う</p> <p>3-1：農牧家と利用者グループで意見交換を実施する</p> <p>3-2：セルゲレン・ソムにおける集荷・出荷体制を検討する</p> <p>3-3：バヤンズルフ地区における販売拠点と販売価格を検討する</p> <p>3-4：技術移転セミナーの開催および関係諸機関との連携・相乗効果を検討する</p> <p>3-5：住民向けの周知活動を実施する</p>
8. 実施期間	(西暦) 2026年5月～2028年11月(2年6か月)
9. 事業費概算額	9,970千円
10. 相手国側実施機関 (カウンターパート)	国立モンゴル科学技術大学
II. 団体の概要	
1. 実施団体／指定団体	学校法人足利大学工学部出井研究室
2. 主な活動内容	足利大学は、再生可能エネルギー分野において長年の研究・教育実績を有し、国内外での技術支援や人材育成に取り組んできた。特にモンゴル科学技術大学との連携や JICA 事業への参画を通じて、国際的な再生可能エネルギー分野の技術協力実績を積み重ねている。